

//REPORT//

ユネスコスクールオンライン意見交換会

2/16 開催 第7回「これから最も大切とされる「エージェンシー」とは何か？
その力をどう育むのか？～ESD 大賞受賞校の取組から考える～」



2020年度より、ユネスコスクール事務局はユネスコスクールオンライン意見交換会を1か月～2か月に1回のペースで実施することとなりました。今回はこれから最も大切とされる「エージェンシー」とは何か？その力をどう育むのか？～ESD 大賞受賞校の取組から考える～」と題して、対話の場をもちました。

■プログラム

開催日時:2021年2月16日(火) 16:00～17:00

時間	内容
16:00	オープニング 趣旨説明
16:05	事例紹介 福山市立福山中・高等学校 上山晋平氏
16:20	コメント 鳴門教育大学大学院 田村和之氏
16:25	グループディスカッション 事例紹介を聞き感じたこと、各校の取り組みをお互いに共有します。
17:00	クロージング

■ キーワードは Agency(エージェンシー)

自分や社会・地球のハッピー(Well-being)の実現に向けて今後最も必要とされる「Agency を発揮できる人」になるには？

福山中・高等学校の上山晋平氏より話題提供いただきました。以下、ご発表の概要です。

1. エージェンシーとは何か？

エージェンシーとは、OECD(経済協力開発機構)が策定したものです。OECD Education2030 プロジェクトというのがあり、日本でも東北大震災をきっかけに積極的に参加しています。OECD では、エージェンシーを「個人・社会の良い状態(ウェルビーイング)に向かって、自分で目標を設定して、振り

返り、責任をもって行動する能力」と定義しています。では、なぜエージェンシーが必要なのでしょうか。理由は 3 つあります。1 つ目は、予測困難で不確実な社会の中で「実現したい未来」を実現するには、「言われたことをする」だけや「個々のスキルを身に付ける」だけでは不十分だからです。2 つ目は、「実現したい未来を自分で考えて目標を設定し、必要な変化を実現するために行動する」ことが必要と言われています。そして 3 つ目は、「未来を予測する最良の方法は、未来を創ることだ」からです。一般的にエージェンシーとはあまり馴染みがないような気がしますが、実は、日本の教育にも含まれています。教育基本法の第二条の中にはエージェンシーの理念と重なる教育の目標がたくさん書かれています。国際的にエージェンシーを発揮している若者もいます。例えば、グレタ・トゥーンベリさんやマララ・ユスフザイさんがそうですね。日本でも、大学生の露木志奈さんが環境活動家として活躍しています。

2. 自分・社会・地球の幸福とは？

自分や社会・地球の幸福(より良い状態)を目指して、私たちにはどんなことができるでしょうか？はじめに、あなたにとって幸せ(幸福)とはどのような状態でしょうか？英語では、Happiness と Well-being の二つの言葉がありますが、Happiness は一時的な幸福状態、Well-being は持続的な幸福状態を意味します。生徒に聞くと、ハッピーな状態はお金が入った、成績が上がった、恋愛等が出てきます。OECD も Well-being の指標をつくっています。なぜなら、大切なのは経済成長だけでなく、人々が「心身ともに幸せな状態」(Well-being)を作り出すことと考えているからです。例えば、この指標の中には健康状態、ワークライフバランス、教育とスキル、社会とのつながり等が入っています。では、個人の幸福と地球全体の幸福は違うのでしょうか？それとも一緒なのでしょうか？生徒達には個人と世界のウェルビーイングはつながっているということ、OECD の指標と SDGs が密接に関連しあっていることを伝えています。

3. エージェンシーを発揮するためには？

ここからは、エージェンシーを発揮するために、学校でできることをご紹介します。本校では、ユネスコバンコク事務所が主催した、[Happy Schools Project](#) に参加しました。同プロジェクトの英語と日本語の冊子が[ユネスコバンコク事務所のウェブサイト](#)よりダウンロードすることができますので、ぜひご覧ください。冊子に載っているハッピースクールの調査結果を見ると、学校が不幸せになってしまうのは、いじめや生徒の勉強量が多い、学習環境が悪いことが要因として挙げられています。逆に教えること・学ぶことを楽しくすること、ポジティブな人間関係は学校を幸せにする要因として挙げられています。

最近、本校で実施したハッピースクールに関する取組についてご紹介したいと思います。このごろ、コロナ禍でストレスを抱える生徒が増加しています。保健室の利用生徒数は 2020 年 7 月には 141 名と前年より倍増していました。校長先生とも何ができるか話し合い、アニマルセラピーの効果を期待し、学校で羊を飼うことにしました。校内で羊の名前を募集し、教員と有志の生徒で散歩をしたり、小屋をそうじしたりしてお世話をしています。羊を飼ってから、生徒の笑顔も増え、保健室を利用する生

徒数も減少しました。

また、生徒会でもできることを模索し活動しています。コロナの影響で、中学3年対象のオープンスクール学校施設案内をできないことから、「あつまれ どうぶつの森」のゲームの世界観を真似て、楽しい雰囲気のアピールすべく動画説明をしました。生徒会で集まる機会が増えたことで生徒同士の仲も深まりました。その他には、学校の校則を保護者、教員、生徒で見直し、携帯電話を学校に持ち込みしてもよいことにするなど、生徒側に立ったルールが増加しました。また、生徒会では学校をよりハッピーな環境にするための標語を作ったりしました。

本校の生徒には、教科の中でもエージェンシーを発揮できることをお話しています。本校のビジョンにはESDの項目を取り入れて長期的に取り組めるようにしています。例えば英語の授業では、教科書の内容理解だけでは学びは終わらないことを伝えていきます。英語の試験はペーパーテストだけでなく、「1分間の英語プレゼン」を実技テストとして加えています。実技テストでは、教科書で学んだことの紹介だけでなく、他の単元での学びと関わり、そこから見てきた課題とその課題にどう対処すればよいか自身のアイデアを提案してもらいます。このテストから、実際に動いてみたり、学びを「社会」・「生活」につなげられるようになってきたりしています。

探究学習でもできることがあります。本校の生徒も福山市や大学と連携して街づくりについて考えたり、戦争・平和教育をどうすべきか小学校の平和学習授業で実践したり、みんなが欲しがるとも使える防災グッズの調査・作成、子どもたちの遊び場を増やすためになぞ解きを小学生向けに実施したりしています。また、探究学習以外でも生徒たちは「身近な環境をよくする」プチ探究を自主的に行っています。例えば、大講義室の掃除が整頓しづらく大変だったことから、床に机を合わせるテープをつけたり机に番号をふったり、試行錯誤しながら改善してきました。

もちろん、個人で今日からできることもあります。スマホでできるアクション、おうちでできること、家の外でできること、学校でできること様々です。また国連からも『[持続可能な社会のためにナケモノにもできるアクション・ガイド](#)』が出されています。生徒には、自分が住む地球は自分が住む家だと考えると結構自分事化できるよ、と話しています。

4. エージェンシーを発揮するためのヒント

実践のヒントを2つお話したいと思います。1つめは、「提案」で終わらず「実行」まですることです。どうしても、調べ学習をして提案までで終わってしまうことが多くあります。しかし、実践してこそ見えてくるものがあるので、提案したことを実践するように生徒には話しています。実践するためには、まず調べ学習で問題を見つける必要があります。問題を見つけるためには、現状と目標の差がないか注目します。その差が問題であり、その差を埋めるためにすることが課題となり、目的が定まってきます。2つ目のヒントは、「ヒーロー・トラップに気をつける」ということです。意識の高い自分一人だけがどんどん変わってもうまくいかないのです。みんなで変わっていきましょう、自分だけでなく周りも巻き込んで助け合っていくことが大切です。

このように、生徒もエージェンシーを発揮できる場・社会があります。まずは、身の回りの問題や不安に気づくことが大切だと思います。また、教員も「生徒がエージェンシーを発揮する」支援者として変わ

っていくことができます。最後にバタフライ・エフェクトについて多くの方に知っていただけたらと思います。ブラジルで蝶が羽を動かすと(=些細な行動)がテキサスで竜巻が発生する(=遠くに大影響)というものです。現在は、「初期値過敏性の法則」として知られています。これは自然だけでなく、人間の未来にも当てはめることができます。我々も学校教育を通して「エージェンシー」を発揮し、よい社会を創っていかれたらと思います。

■ みんなが幸せな学校にするために

話題提供を受け、鳴門教育大学大学院 田村和之准教授にコメントをいただきました。

- ・ エージェンシーについて、福山中・高等学校の実践を交えながらお話いただき大変わかりやすかった。
- ・ エージェンシーという言葉を知ることが最近増えたが、子どもたちがより良い世界に向けて、身の回りのことからできることを少しずつ実践していくことで、バタフライ・エフェクトが起きると思う。
- ・ コロナ禍の中、福山中・高等学校の生徒さん、校長先生をはじめ教員の方々が一生懸命、様々な活動に取り組まれている姿に感銘を受けた。
- ・ 瞬間的な幸せだけでなく持続する幸せ、そして自分だけではなく周りの人の幸せも考えた上で、SDGs の目標に絡めながら活動されている点も素晴らしい。今後、このような活動が大切になってくるのではないかなと思う。

■ 具体的に活動を進めていくために・・・

話題提供とコメントを受け、参加者同士の対話の時間が持たれました。以下、話し合われた内容です。

- 福山中・高等学校のお話を聞いて、たくさんの要素を子供たちが取り入れていて、楽しんで実践されている様子が伝わってきました。
- 日々の探究が目前の生活に活かしているのが素晴らしいと思った。探究することが目的ではなく、探究を活かしてどうやって社会・生活につなげることが大切だと改めて感じました。
- 地球規模から身近なことを考えていくというアプローチが面白いと思いました。

[質問]

Q:Happiness と Well-being、どちらも SDGs においても大切だが、学校での授業実践の中にはこの2つを意識的に区別して教えているのでしょうか？それとも総合的に捉えて活動に活かされているのでしょうか？

A: Happiness と Well-being の違いや例については、生徒に話している。また、学校が生徒の今と将来を見ていく場所であるため、今が幸せ・充実しているという状態も必要だけど、それだけでなく将来も活躍できる、平和な世界を生きるための準備をする場でもあるので、両方の要素をあんばいよく取り入れていけたらいいなと思っています。

Q: 福山市自体で非常に熱心に活動されているという印象がありますが、福山市の子どもたちはそういった下地があって熱心なのか、もしそう感じる事があれば教えていただきたいです。

A: 小学校で何をしたかは把握できていないが、子どもたちから聞いて知ることもあります。今後は異校種連携を進めていきたい。また、子どもたちがたくさん活動する場面を仕組んでいくことにより、子どもたちそれぞれがどんなことができるのかが見えてくるので、授業で座って先生の話の聞くだけでなく、動きを取り入れていくのも大事だと思っています。

Q: 目の前にある自分の学校の中の問題に気づき、行動するための仕組みや仕掛けがあれば教えてください。

A: 「学びを生活・社会に活かして、よりよい社会を作っていく」ことを、学校全体、日本全国の学校で今取り組んでいることを何度も生徒に伝えていきます。教科や各担任からだけでなく学年全体で話して、共有するようにしています。

Q: 教員の得意不得意、興味の有無によってなかなか学校全体で探究が広まっていけないことがあるが、教員同士で工夫されていることがあれば教えていただきたいです。

A: 本校内に教育研究部という独立した組織があるので、国・県で示されていることを教育研究部で情報共有するようにしている。

Q: 子どもたちが主体的であること、心折れずに取り組むために継続する仕組みとして振り返りが必要となってくると思うが、振り返りや自己評価はどのように取り組んでいますか？

A: 1つは探究ノートの作成。ノートで講演のメモやワークシートを貼り情報を1冊にまとめられるようにしています。そうすることで、1年間の振り返りができ、過去の気づきなどが見返せるようになっています。もう1つは、探究の最後に振り返りシートを全員にかなり多めに書いてもらい、それを次年度の探究ノートにも貼っています。そのため、学年が上がっても昨年何ができたか、できなかったかを見られるようにしています。

毎日の朝や放課後の様子

朝「もふお」を散歩させる生徒たち(8:00前) もふおを家族と呼んで愛でる教職員

生徒と一緒に校長先生も

保健室来室人数の推移は？(保健室より)

月	昨年度	本年度(昨年度比)
5月	86人	0人
6月	129人	145人
7月	84人	141人(1.7倍)
8月	26人	59人(2.2倍)
9月	128人	169人(1.3倍)
10月	131人	130人(0.9倍)
11月	111人	136人(1.2倍)

〔意見交換会の様子〕

※次回は、玉川大学教育学部と連携し 2021 年 3 月 16 日(火)16:00～17:00 に開催します。テーマやお申込み方法などの詳細は、後日[ユネスコスクール公式ウェブサイト](#)内「最新情報」、[ユネスコスクール公式 Facebook](#) にも掲載します。今年度最後の開催となりますので、お見逃しなく！